

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩心 会 発行

9年 8月現在 子地区 山地区計 船地区計 逗葉大合	会員数 148名 216名 40名 404名	9年 8月 (301号) 発 藤 行 者 加 編 集 者 中 村 岳 愛
--	------------------------------------	---

行事予定

○第6回神奈川地区青少年吟道大会

日時・9月7日(日)

会場・平塚農業会館

○碩心会秋期審査会

日時・9月21日(日)10時開会

会場・逗子図書館ホール

○第108回全国吟道大会

日時・9月28日

会場・長野県民文化会館

※神奈川県本部としては27日(土)～29日(月)の

二泊三日で吟行会も兼ねます。

(碩心会より参加)

加藤岳相 千葉岳関 松井正岳

上村象岳

~~~~~ 8 ~~~~~

**冠稱** (9年7月1日付)

宗匠 三井岳朧

宗佑 千葉岳関 中村岳愛 加藤岳洵

中村岳郵

**正師範** (9年7月1日付)

矢嶋岳悦 松井正岳

第4回全国優秀吟者吟道大会

一般入場希望者申し込みについて

一、賦 吟・平成10年3月22日(日)

一、整理券・一枚三千円(プロ、弁当付)

一、申込・平成9年9月30日迄(松井へ)

一、割当・定員オーバーの場合は割当

一、料金・申し込み料金は後日徴収

平成九年度

## 碩心会理事会議事録

日時・平成9年7月13日(日)13時30分より

会場・逗子市立図書館3階講座室

定刻、松井正岳総務部長の司会により、理事會次第に従って、先ず千葉岳関副会長の「開会のことば」に続き、中村岳郵許証部長の先導により「碩心会の詩」を全員で合吟。次に加藤岳相会長の挨拶があり議事に入る。議長に加藤会長が就任し、書記に宇都宮徳岳を指名さる。

加藤議長から、理事以上の役員総数72名中、委任状18名を含め64名で、本日の議案を議決

するに充分であることを確認発表理事会成立。議事に入り、第一号議案の各地区長、各部長の報告があり諒承さる。

その中で矢嶋岳悦会計部長から、碩心会創立60周年記念吟道大会収支決算報告が別表の通り、繰越金（八万七千九三円）を繰越金とし、無事終了したことの報告があった。又来る65周年大会に備え、従前のように積立金を開始したいとの要請があり諒承された。

第二号議案平成8年度収支決算報告及び、教本その他の特別会計が報告され、鈴木岳抄会計監査より、適法且つ正確であるとの監査報告があり、満場の拍手で承認された。

第三号議案平成9年度予算案についてもプリントにより説明あり、異義なく承認さる。

第四号議案その他において、松井総務部長から、経費漸増で、予算を組むのに余裕がなくなってきたので、平成10年度から、碩心会費を年額で400円増額して（二千四百円）にしていただきたいとの提案があり、質問に対し詳細な説明をなし承認された。

更に会運営に関する積極的意見が出され、之について議長等から懇切なる説明がなされ諒承された。又会長から会員増員につき、会

員全員に対しての絶大なる協力の要請あり。以上で議事終了し、議長及び書記が解任された。

最後に加藤岳副会長の「閉会のことば」により終了。15時30分。（宇都宮徳岳記）

## 詩吟と私

杉本 惠 岳

二十年前返子に越してきて先ず始めたのが詩吟だったので。関西出身ということもあって、三井先生には大変ご苦勞をおかけしたことと思っております。

諸々の会合に出た折、人に勧められれば好きな詩を吟じたり、句碑のあるお寺などでは先生方の碑の前で、その句を吟じたりしているうちに、句会や吟行にも参加するようになりましたが、忘れられないのは、信州の姨捨山で、恩師の句碑の除幕式のと、その俳句「姨捨にのしかかりたる大銀河」を吟じさせていただいたことです。

あまりにも大役なので、お断りしていましたが、是非にといわれ、せっかく習っているのだからと、自分に言い聞かせて精一杯吟

じました。皆様から大きな拍手をいただき、自分でも満足の出来だったし、爽やかな秋風に乗って、田毎の月で有名な、田の面まで自分の声が流れていったのかと思うと、感慨深いものがありました。又先輩の方が、その様子を早速と俳句に詠んで下さったことも嬉しい思い出の一つです。これも偏えにご指導下さいました先生や皆様のお陰と感謝いたしております。

## 故山に吟ず

東伏見 大内 萃 山

四年半前、漢詩に魅かれていた私は、詩吟教場が東伏見台に出来ることをお聞きするやすぐ入会させていただきました。そして、沼田岳義先生のご熱心で、ご懇篤なご指導の下、森合支部長はじめ、心温かな吟友に支えられ、漢詩を吟ずる悦びに浸ってまいりました。

ここ一ヶ月余り、里の父の入院、病状悪化の報せで帰郷しておりました。しかも母も年老いて、めつきり気弱になっておりましたので、元氣づけるためにもと、未熟さを省みず、「母を奉じて嵐山に遊ぶ」を吟じましたとこ

ろ、いたく感激してくれました。

奉母遊嵐山 頼山陽 (2/4頁)

不到嵐山己五年 萬株花木倍鮮妍

最忻阿母同衾枕 連夜香雲暖處眠

この詩は、嵐山を覆いつくす爛漫の桜への感激と、それにも増して、老いた母とともに旅をし、枕を並べて眠ることのできる喜びを詠んだものです。

こうして、老いた母を労る気持ちを、頼山陽の詩に託して吟ずることができ、又新たな詩吟の魅力を発見することができました。実はその時母から、母も五十代の頃、つまり今の私の年頃から詩吟を習いはじめていたことを聞きまして、とても驚きました。やはり親子なのだと実感すると共に、嬉しい思いでございました。

この七月から新しいお仲間も増え、東伏見支部も十二名となりました。浅学非才の私ですが、沼田先生の御指導を仰ぎ、これからもより一層、切磋琢磨し、且つ和氣藹々と楽しみながら、詩吟の向上に励むことができたかと願っております。

## 戦友を訪ねて朗詠

中村 岳愛

夏休みの一日、岳郵といっしょに那須塩原に岳郵の戦友(上官)を訪ねました。四年振りの再会で、先方も再会を心から待っていて下さり、大変うれしく思いました。

でも89才の年齢には勝てず、足腰も弱り、耳も遠くなられ、話題も思うように伝わらない様子で、私はそばでははらしていましたが、ふと思いつき、そうだ、詩吟だったら大きな声でやるから聞いてもらえるのではと、急遽思いつき、岳郵が「二度とない人生だから」を。私は武者小路実篤作の「歩いてゆけなければ」を吟ずることにしました。全くの思いつきの吟題でしたが、考えてみたら戦友の現状に詩文の内容もよかつたのではと思いましたが。そして戦争時代の思い出を思い出しました。ここはお国を何百里の軍歌を添え「金州城下の作」を吟じたところ、突然奥様が急いで隣近所の方々を招かれ、もう一度吟じてほしいといわれ、テープにも収録という思いがけないひと幕となり、戦友を訪ねての忘れられない思い出となりました。

## 散歩の功德

風早・堤 誠山

私達は葉山に移住してすでに九年になります。寿山と二人で、日課として欠かさず続けているのが朝夕の浜辺の散歩です。

「あーあーに行くの、行つてらっしゃい」と、二才になつたばかりの孫に送られて風早教場にお世話になり、瞬く間に六年が過ぎました。小さかつた孫も小学二年生となり、月日の経つ速さに驚きます。

漢詩が好きで誘われるままに、寿山と二人で入会しましたが、困つたのが練習の場所でした。家の中で大きな声を出せば、近所の方に迷惑をかけると思ひ、考えたのが朝夕散歩していた森戸の浜辺でした。早朝人影の少ない浜辺ならいいだろうと話し一決、散歩を兼ねて練習することにしました。

当初は、発音法も発声法も全く解らず、人影のない森戸神社の下の浜辺で、朝の空気を胸いっぱい吸い、最初に習つた詩を吟じたものでした。今思えば冷汗が出そうですが、誰憚ることなく大声を出せる場所を得たことは、散歩を続けていた功德でした。

海に向っての声は、遙か彼方の海に吸い込まれて反応がなく、自分の声がどの位出ているのか分りませんが、爽快感があります。声量には人それぞれの素質があると思います、焦らず続けています。

日を重ね、杉山先生の熱心なご指導で、発声法、呼吸法等がおぼろげながら解つてくるにつれ、吟の魅力と共にだんだん難しくなってきました。最近特に、俳句や和歌の吟じ方について厳しくご指導があり、詩情をよく理解し、豊かな吟を表現するよう教えられます。詩は人間の心の表現であると思い、心を込めて吟ずるよう心がけていますが、心と声が仲良くしてくれず苦勞しています。

詩情を表現するには、吟じ込むことが大切とのこと。折角与えられた、風光明媚な葉山の浜辺を無料で利用させて頂く自然に感謝し、今後も散歩を兼ねて続けたいと思います。散歩の功徳を自分なりに感ずることを書いてみます。

- 歩く健康…何時間歩いても疲れない。
- 夫婦和合…趣味同一、談笑しながら歩く、喧嘩知らず。
- 散歩仲間が出来る…和やかに談笑でき爽やかに

かになる。

○食欲が出る…朝食が特に美味しい。  
○自然を満喫できる…海は刻々と変化するので飽きない。

○頭の体操、手足の運動ができる…浜辺に打ちあげられた貝を拾い、貝細工ができる。  
(貝の仏像、人形等200体程できています)

### 誠山・寿山ふたりづれ (岳雪)

一、海が好きです二人は

朝に夕べに海に出て

大きな声で吟じます

風が消しますその声を

波が静かに聞いてます

二、海が好きです二人は

貝がらみつけて歩きます

人に踏まれた貝がらが

良寛さんに変わります

きれいな花に変わります

三、海が好きです二人は

吟声高く兵児の謡

沖に向って吟じます

とどけその声熊本へ

誠山・寿山のふたりづれ

(移籍)

左記3名が銀詠支部より悠吟支部へ移籍しました。

99 三壁照岳 122 真下心岳 462 角田照夫

(住所表示変更)

4 三井岳 横須賀市武3-39-2号

あっとホーム

電話は同じ・04681-5616468

(入会)

479 中司裕子 横浜市栄区犬山町68-3

(返子B) ☎0451-8931-1943

今月号に、杉本恵岳さんが恩師の句碑の除幕式の折、碑前に於て恩師の俳句を吟じられたこと。

又大内萃山さんは、お父さんの病院見舞に行かれ、気弱になられたお母さんの前で吟じ勇気づけたら、お母さんから、若い頃詩吟をやっていたことをはじめて聞かされたこと。又私は年老いた岳郵の戦友の前で「歩いてゆけなければ」を吟じ勇気づけたこと。

偶々詩吟を通じて皆様に喜ばれたことは、私達にもひとつの励みを与えてくれました。